

- ・ 当館に無断で転載，二次利用することを禁じます
- ・ ご利用になりたい場合は必ず当館までお問い合わせください
- ・ 著作権などの理由により，展示会場のみ展示を行い，オンライン公開していない資料がございますことをご了承ください

明治大学平和教育登戸研究所資料館

大日本帝國臣民ヨリ
不逞國賊
横田喜三郎

1931（昭和6）年10月22日消印 日本帝国臣民ヨリ 不逞国賊 横田喜三郎と呼ぶカクゴシロー

国民総意ニ反スル横田君ノ
自決ヲ促ス
帝國ノ処置ニ反対ノ者ハ
国外追放ス
憂國之志士

1931（昭和6）年12月8日消印 国民総意に反する横田君の自決を促す 定刻の処置に反対の者は国外追放す 憂国之志士

は其時既に其の言何事ぞ
賣國奴！ 人非人 汝の如き
冷血漢は速に自決せよ
血判を以て汝の自決を催す者なり
日本人

1932（昭和7）年1月21日消印 満蒙事件に関し汝の言何事ぞ 売国奴！ 人非人 汝の如き冷血漢は速やかに自決せよ 血判を以て汝の自決を催す者なり 日本人

貴下ニ於テ声明セシ
昭和維新ノ青年 売奴國ノ自決ヲ望ムノ血 見よ！ 鮮血ノ一滴ニ頭ヲ下げよ
大和吉野山人

1932（昭和7）年1月27日消印 貴下に於て声明せる満蒙論非国民たる甚し 自決せよ 昭和維新の青年 売奴国の自決を望むの血 見よ！ 鮮血の一滴に頭を下げよ 大和吉野山人

売國奴赤犬足元ノ明るい
中に淨身しろ 實力ノ制裁
ヲ注意セよ
劍持
横田大臣

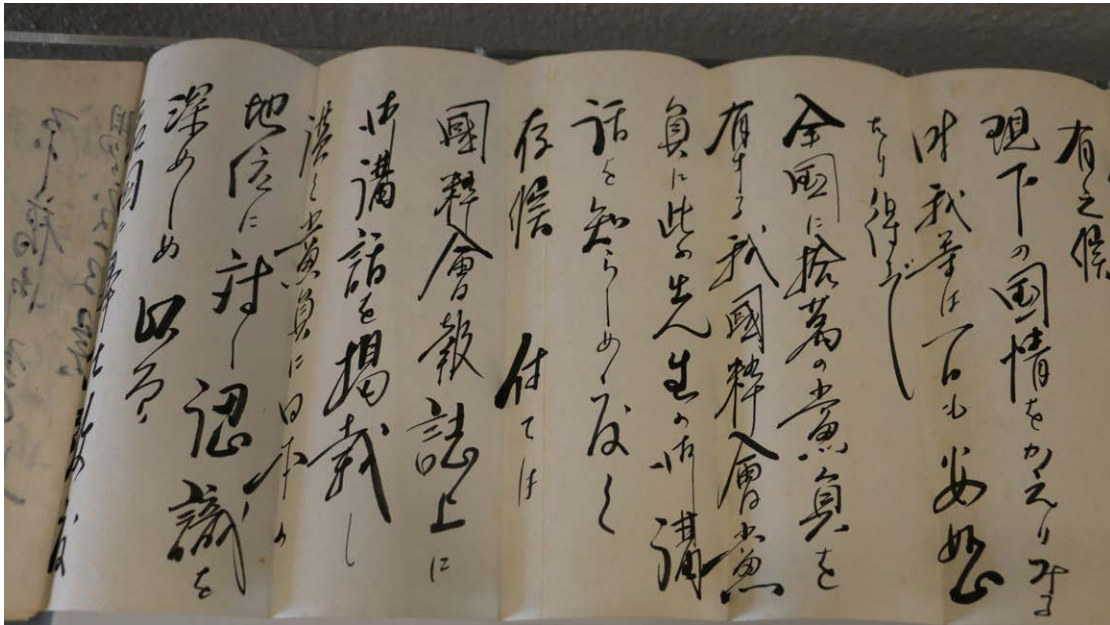
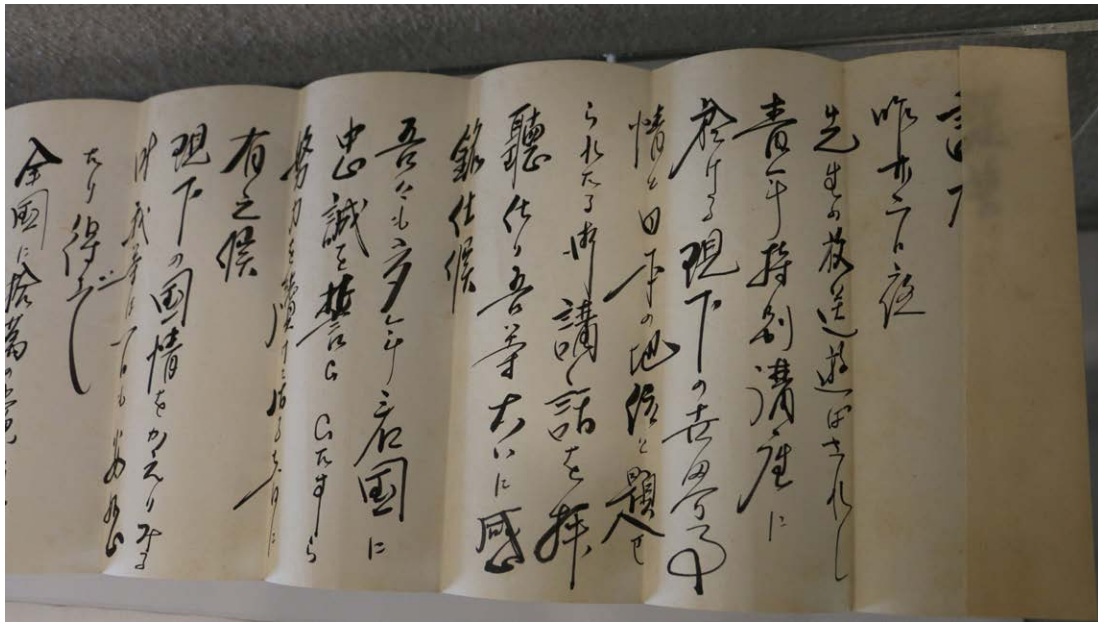
1932（昭和7）年4月19日消印 売国奴赤犬足元の明るい中に浄身しろ 實力の制裁を注意せよ 劍持つ横田大臣

非国民、賣国奴、國賊、
低能學者は横田なり 團、井上の次は横田だ
横田長三郎
法学部帝大生

1932（昭和7）年■月2日消印 非国民，売国奴，国賊，低能学者は横田なり 団 [琢磨]，井上 [準之助]（※血盟団事件で暗殺された二人）の次は横田だ 横田喜三郎だ 法学部帝大生

横田宛葉書

1931（昭和6）年10月に『帝国大学新聞』に掲載された横田の評論および帝大での講演内容に対する中傷葉書の一部。（渡辺賢二氏 寄贈）



JOAK 放送に対する感想書簡

1934（昭和9）年8月22日、右翼団体である大日本国粹会総裁・原田新より差し出されたもの。
 （渡辺賢二氏 寄贈）

別紙

防諜週間実施要綱
一、趣旨 一般國民に對し防諜思想を普及徹底せしむると共に各方面に於ける防諜の實踐を指導訓練し以て我國防諜體制の完備を期するに在り

二、主體 各官廳公衛及其の附屬團體とす
三、期間 五月十二日より一週間とす
四、行事 左の各事項中官公衛及各種團體に於て適宜選擇實施するものとす

- （一）ラジオ放送
- イ、講演 中央に於ては五月十二日夜内務次官之を行ふ
- ロ、その他 (適宜)
- （二）週報、寫眞週報の特輯號發行
- 情報局に於ては五月十四日發行の週報及寫眞週報を防諜

週間特輯號として發行し防諜思想普及徹底の資料とす
（二）新聞記事の指導
情報局に於ては週間中の新聞紙に防諜に關する記事雜物を掲載せしめ防諜思想の啓發宣傳の資料とす

各官廳公衛に於ける防諜措置の整備
各官公衛に於ては其の職員に對し職務上必要なる防諜的注意を喚起すると共に書類統計圖表等の作成又は取扱方法等を再検討し整備規定、設備等に於て防諜上の缺陷なきや否やを調査しこの際防諜措置の整備を圖るものとす

- （三）演劇、映畫會、座談會、パンフレット、輪讀會等の開催
 - イ、各官公衛
 - ロ、警防團
 - ハ、官公私立諸學校
- 各省
内務省
文部省

「防諜週間実施要項」(複製)

1941 (昭和 16) 年 4 月 13 日陸軍技術本部長 岡部直三郎宛、陸軍次官 木村兵太郎差出「防諜週間実施二関スル件通牒」より。(原本：防衛研究所戦史研究センター所蔵，アジア歴史資料センター，Ref. C08030006300-238~240)

- ニ、工場及事業場
 - ホ、各種團體
 - ヘ、隣組常會
 - （註） 演劇會輪讀會の資料は中央防諜委員會より配布の
の 見 込
 - （一）寫眞出版物其他の一齊取締、煙突屋上等の標示文字消去運動の徹底等（規定方針を徹底すること）
 - （二）各郵便局に於ては防諜標語入刷印刷使用
 - （三）ポスター、パンフレットの配布
 - （四）總てその應及團體の負擔たるものとす
 - （五）外地に於ても前各項に準じ本週間運動を實施するものとす
- 厚生省
各省
内務省



弁当掛け紙

山形県酒田で購入した駅弁にかかっていた。1941(昭和16)年8月1日の押印がある。掛け紙は宣伝商材としての役割も持っていた。(山口醇氏寄贈)

防諜マッチラベル

(当館所蔵)

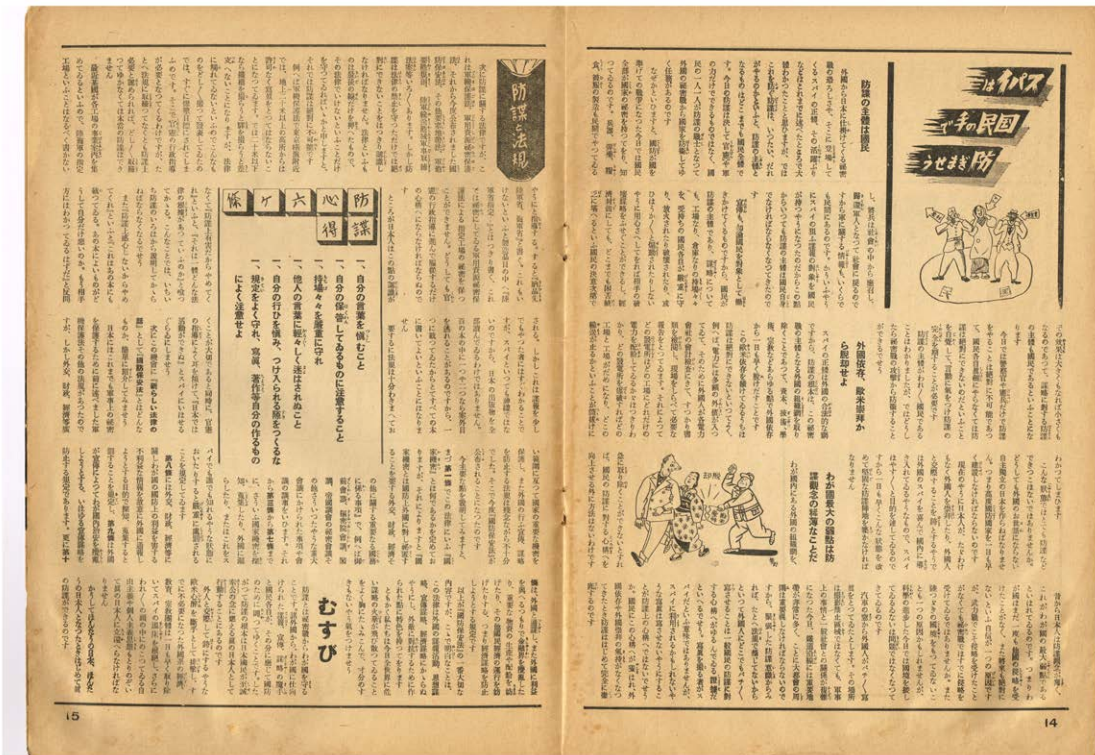


「スパイ御用心」シールが貼付られた小学生用自習書 (当館所蔵)



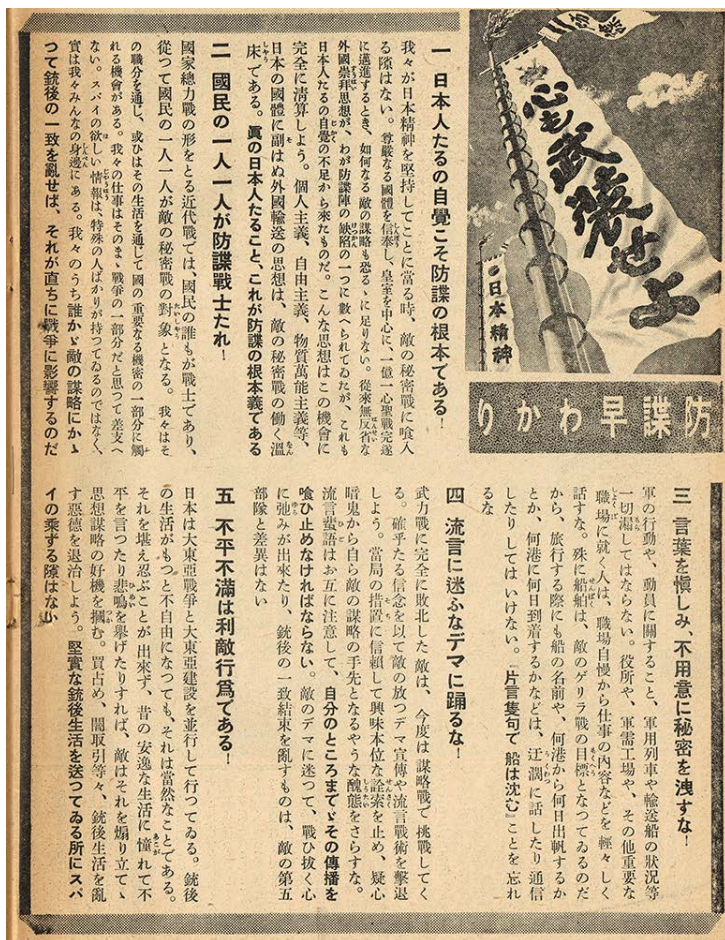
防諜ポスター

(絵葉書美術館所蔵)



(上) 『写真週報』 第 168 号

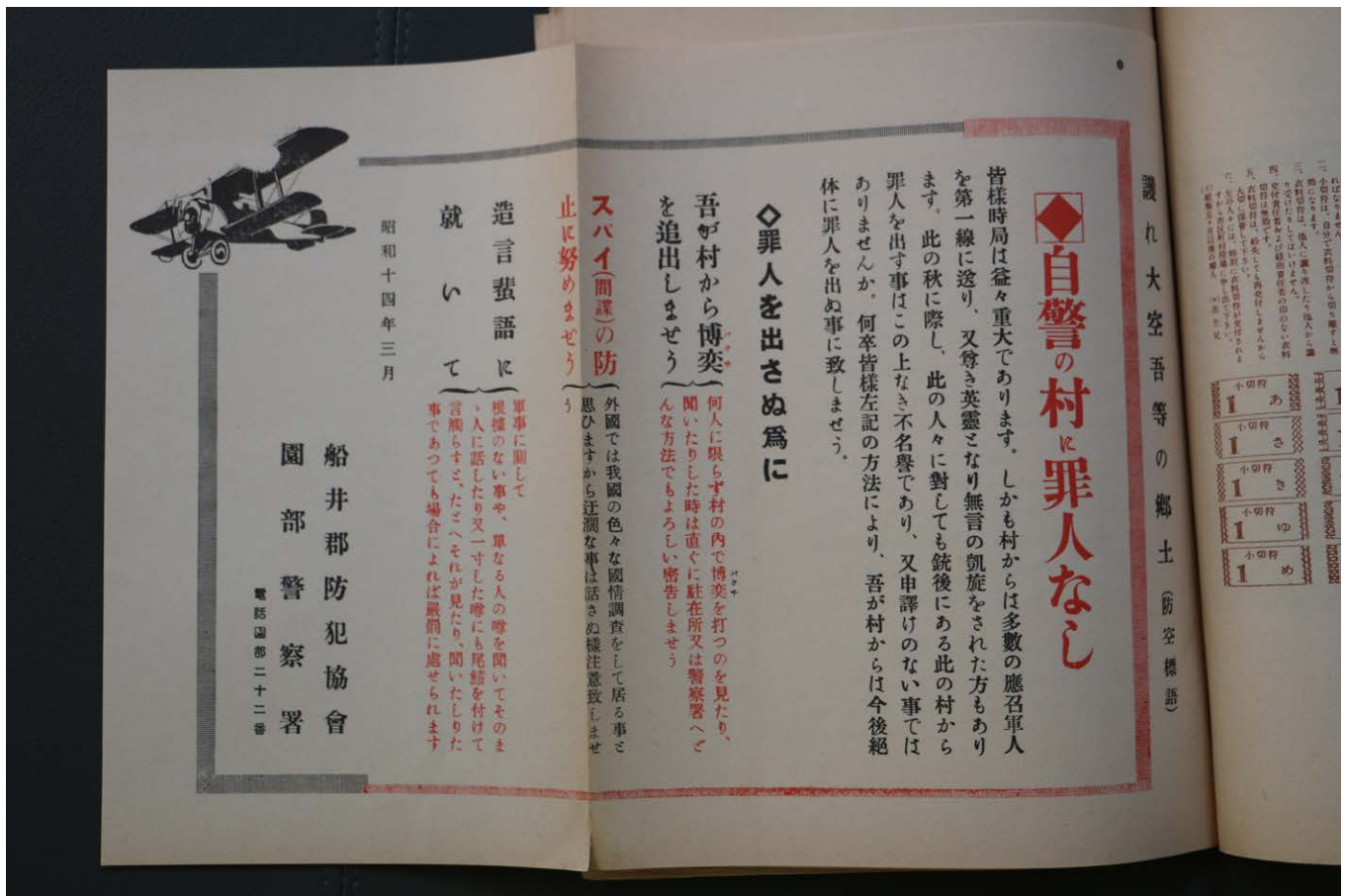
1941 (昭和 16) 年 5 月 14 日発行、第一回防諜週間にあわせて刊行された防諜特集号 (渡辺賢二氏 寄贈)



(左) 『写真週報』 第 229 号

1942 (昭和 17) 年 7 月 15 日発行、第二回防諜週間にあわせて刊行された防諜特集号 (当館所蔵)

第二章 「一億総防諜戦士」に到るまで



町内会防諜チラシ（複製）

原本は1939（昭和14）年3月発行。『平和への伝言 復刻版 戦争実物資料』あけび書房,1992年より（渡辺賢二氏寄贈）



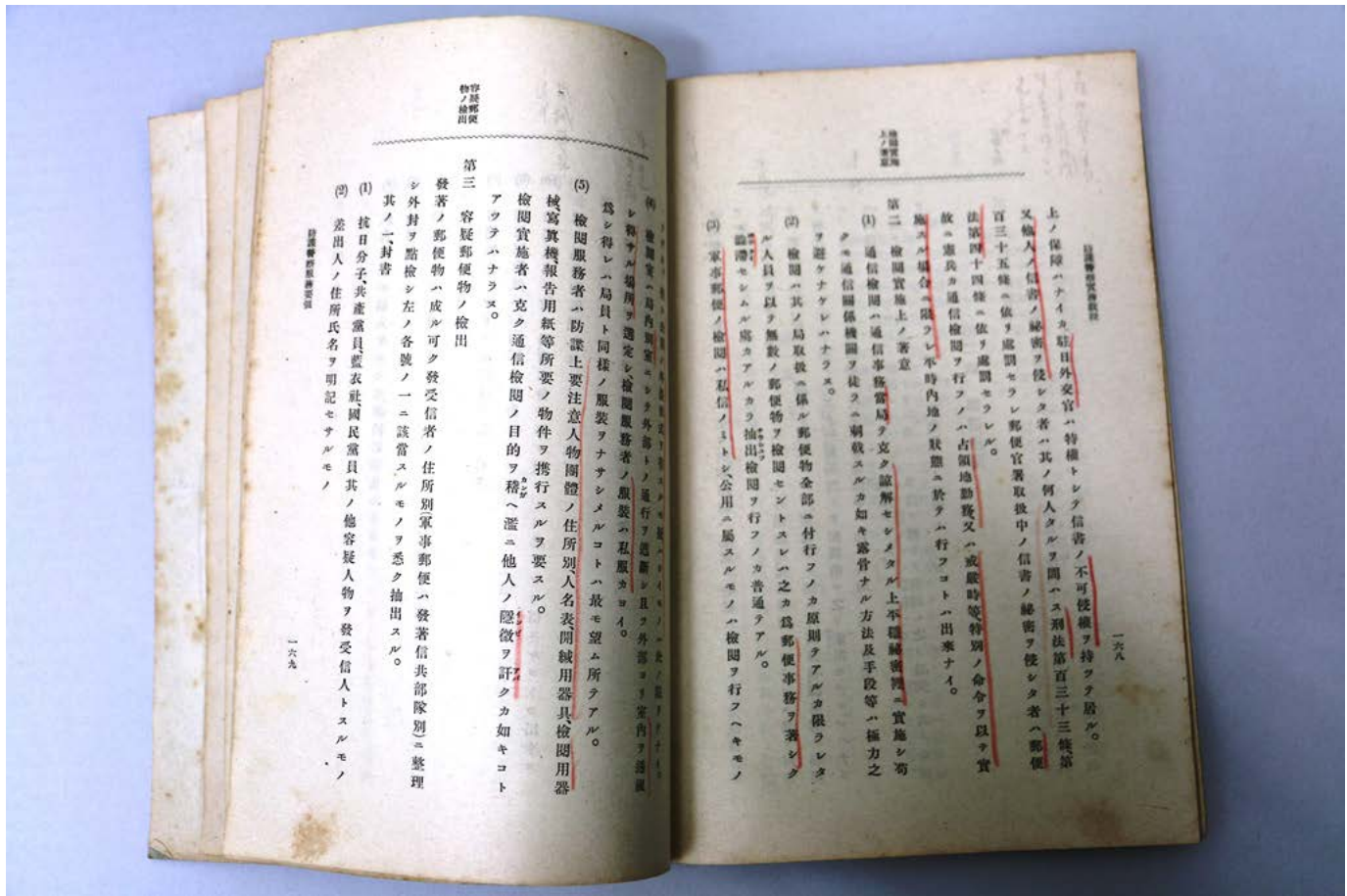
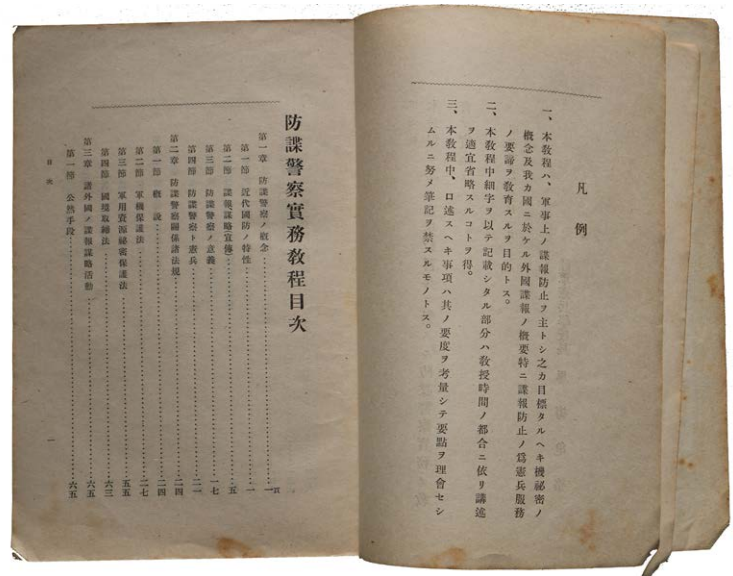
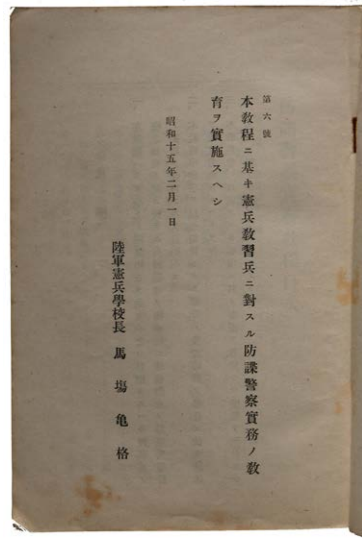
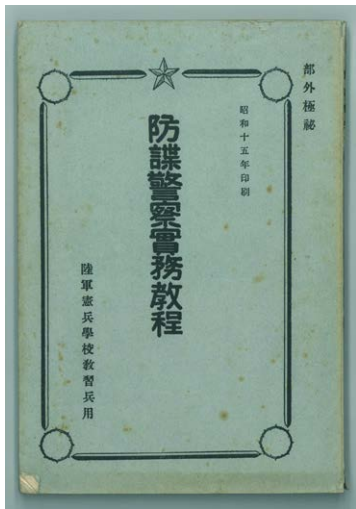
紙芝居「スパイ御用心」（複製）

内務省警保局外事課原作，日本教育紙芝居協会作成（平和資料館草の家所蔵）



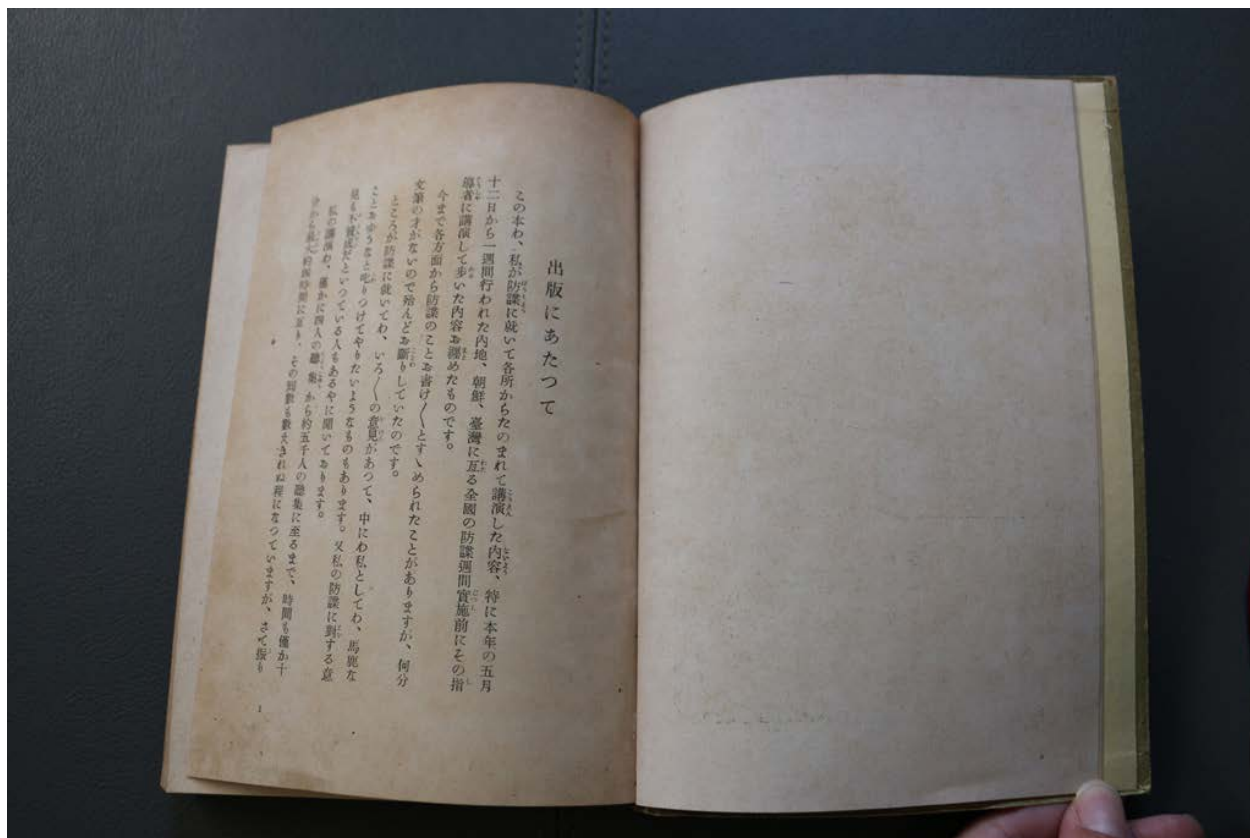
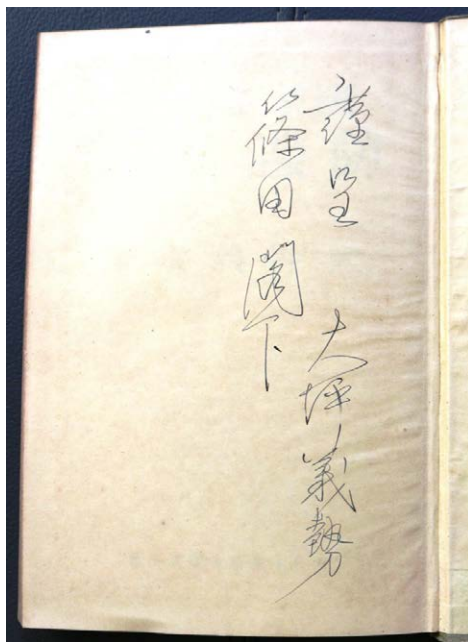
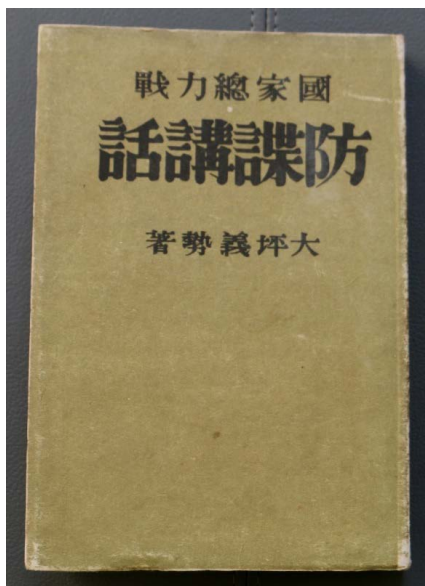
新井辰男『スパイと防諜』（新光閣，1939年）に紹介されている防諜標語や1941年防諜週間時の銀座の街を参考に当時をイメージし作成したコーナーです

第二章 「一億総防諜戦士」に到るまで



部外秘 陸軍憲兵学校教習兵用『防諜警察実務教程』より
 1940 (昭和 15) 年 2 月 1 日発行、郵信検閲の方法について教えている箇所。検閲者は憲兵であることが周りに知られないように「服装は私服がよい」とされている。(当館所蔵)

第三章 極秘防諜機関「ヤマ機関」と登戸研究所



大坪義勢『國家總力戦 防諜講話』

1941（昭和16）年12月、1941年の防諜週間にあわせ、大坪が各地の指導者に防諜指導した際の講演録。この本は篠田鐸（登戸研究所所長）に大坪から謹呈されたもの。（当館所蔵）

陸軍

冠省

先般御内約致置候藥劑報告の件只今同封を以て御送附致し候へば御查收被下度候

尙誠に恐縮に候が御查收の上は別紙御返送相成度候

敬具

昭和十八年二月八日

登戸研究所

陸軍兵技大尉 伴 繁雄

陸軍省防衛課

會田中佐 殿

陸軍省防衛課

陸軍省防衛課

獸醫資材取得幹旋相成度件照會

昭和十八年十月三十日

登戸研究所長

兵務局長 殿

首題ノ件試験研究ノ爲必要ニ付別紙獸醫資材取得幹旋相成度照會ス

追而本件ニ關シテハ貴局獸醫課池田少佐ト連絡濟ニシテ當該所要經費ハ當方ニ於テ負擔スベキニ付申添フ

ヤマ機関と登戸研究所の關係を示す文書（複製）

登戸研究所のタイピストだった関コト氏が残した『雑書綴』より。1943（昭和18）年代のもの。ヤマ機関の本部が陸軍砲工学校南側に移った際に登戸研究所はヤマ機関本部内に「大久保分室」を設置した。ここでは物品の購入・受取やヤマ機関および中野学校からの各種器材の注文を受けていたとの元登戸研究所勤務者の証言が残る。ヤマ機関は官制外だったが、兵務局防衛課附になっていたため、「兵務局長」や「防衛課」宛の文書はヤマ機関宛文書だと考えられる。また元登戸研究所勤務員の証言による「え号剤（軍用犬の誘引剤）」はヤマ機関からの注文を受け開発した経緯があるとのこと。

（原本：小林郁久氏所蔵）

登研分第三〇號

單價契約書類送附ノ件通牒

昭和十八年五月十八日

登戸研究所大久保分室



第二科 御中

昭和十八年度上半期ニ於ケル單價契約ハ別冊ノ通りニ付參考ノタメ送附ス